

淡路島内小児救急について

日曜・祝日 年末年始	受付時間 午前9時～午前11時30分 午後1時～午後4時30分	洲本市応急診療所にて小児科医が輪番で救急患者に対応
洲本市応急診療所	☎0799-24-6340	洲本市港2-26
夜間(毎日)	受付時間 午後10時～翌朝5時30分まで	各自の診療所において小児科医が輪番で救急患者に対応
小児夜間救急電話センター	☎0799-44-3799	

(3市共同実施)

小児夜間救急について

午後10時～翌朝5時30分まで、島内医師等による輪番制で「小児夜間救急診療」を行います。受診する際は、必ず「小児夜間救急電話センター」(☎0799-44-3799)へご連絡下さい。診療窓口受付時間は、午後10時～翌朝5時30分までとなります。看護師がすぐに診療が必要かどうか症状をお伺いして、当日の担当医療機関を案内します。

小児夜間救急診療は、重症患者を見落とさずに、早期入院が必要であるかどうかを判断することを目的としています。入院が必要と判断された場合は、県立淡路医療センターをご紹介します。入院が必要でないと判断された場合は、明朝かかりつけ医を受診してください。

また、次の点をご了承ください。

- インフルエンザ・新型コロナウイルス等の迅速診断の検査は行いません。
- 頓服薬以外の薬は処方できません。
- 会計ができないため、5,000円の預かり金を徴収し、後日精算させていただく場合があります。
- このサービスの通話は、対応の品質向上のために録音させていただきます。
- 中学生以下の内科疾患が対象です。

小児救急医療電話相談サービス

兵庫県 子ども医療電話相談 #8000

看護師等(専任)からお子さんの症状に応じた対処の仕方、病院を受診した方がよいのかなどのアドバイスを受けることができます。

■プッシュホン回線……………#8000

■ダイヤル回線、携帯電話、IP電話……☎078-304-8899

■月～土曜日：18時～翌朝8時 日曜日、祝日、年末年始：8時～翌朝8時

こどもの救急—おかあさんのための救急&予防サイト (ONLINE-QQ)

<http://kodomo-qq.jp/>

中毒110番電話サービス

■大阪中毒110番 (365日24時間対応) ☎072-727-2499

■つくば中毒110番 (365日24時間対応) ☎029-852-9999

■タバコ専用電話 (365日24時間対応、自動音声応答による情報提供) ☎072-726-9922

中毒110番は化学物質(たばこ、家庭用品など)、医薬品、動植物の毒などによって起こる急性中毒について、実際に事故が発生している場合に限定し、無料で情報提供するものです。

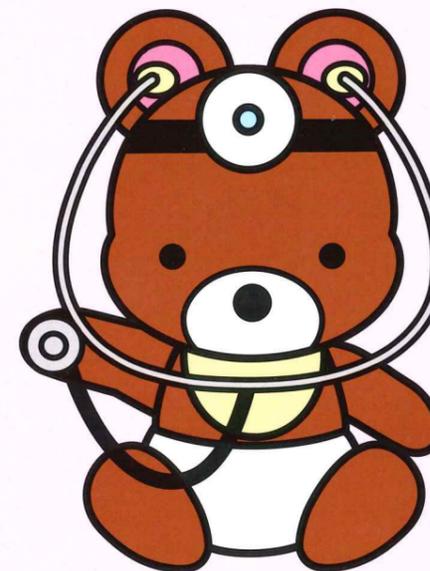
詳しくは、公益財団法人 日本中毒情報センターのホームページ (<http://www.j-poison-ic.jp>) をご覧ください。



淡路島内小児救急についてのお問い合わせは
月～金曜日 8:30～17:15 (祝祭日、年末年始を除く)

洲本市健康増進課	☎22-3337
南あわじ市健康課	☎43-5218
淡路市健康増進課	☎64-2541

あわてて病院に行く前に こどもの急病 チェックシート



夜間・休日にあわてて受診しない
ように昼間早めに受診しましょう

発行 令和6年4月

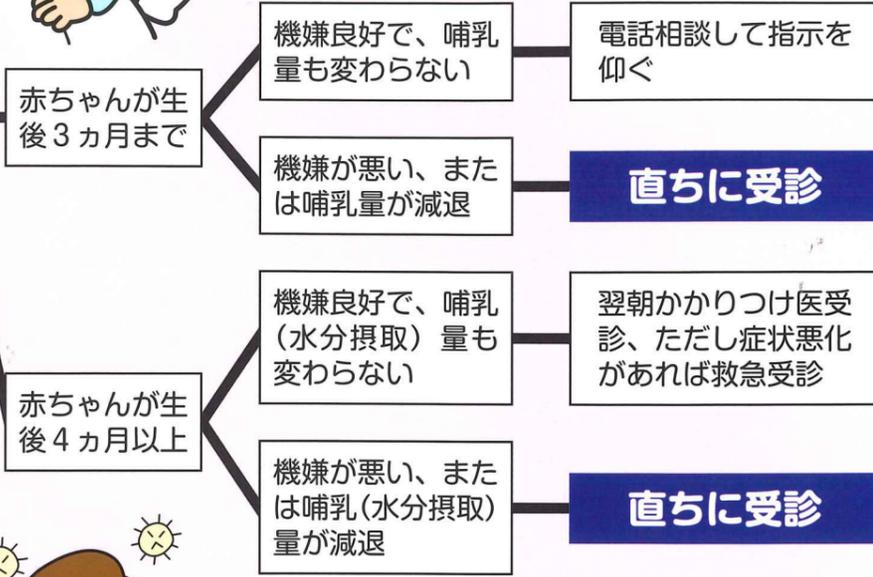
製作 洲本市・南あわじ市・淡路市
洲本市医師会・南あわじ市医師会・淡路市医師会

発熱



38℃以上の時

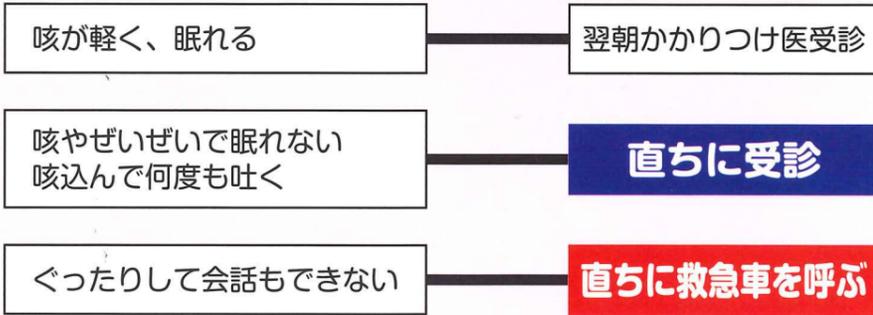
- 発熱が38℃未満の場合は発熱以外の症状で判断してください(他のチャートを参考にしてください)
- 水分補給、体を冷やすことが大事です



咳が出る



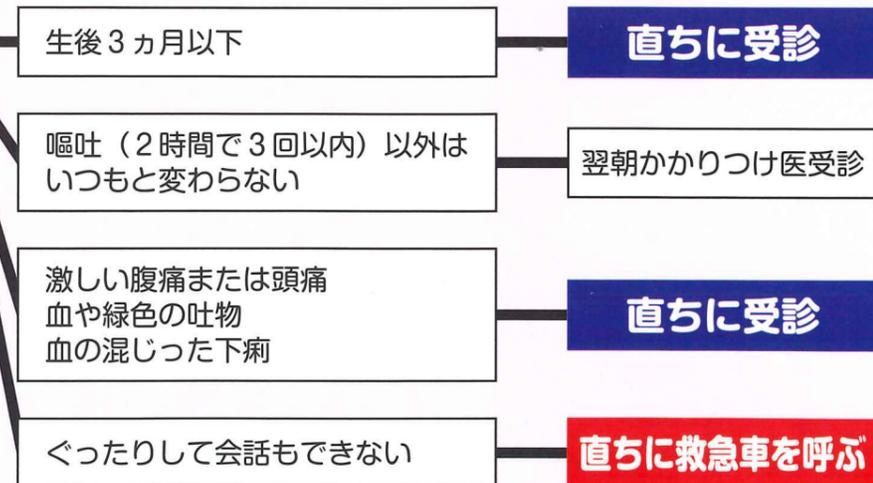
- 上体を高くして寝かせましょう
- 水分補給を十分にしてください



嘔吐

数回の嘔吐

- 脱水症にならないように、少しずつこまめに水分を補給しましょう



けいれん

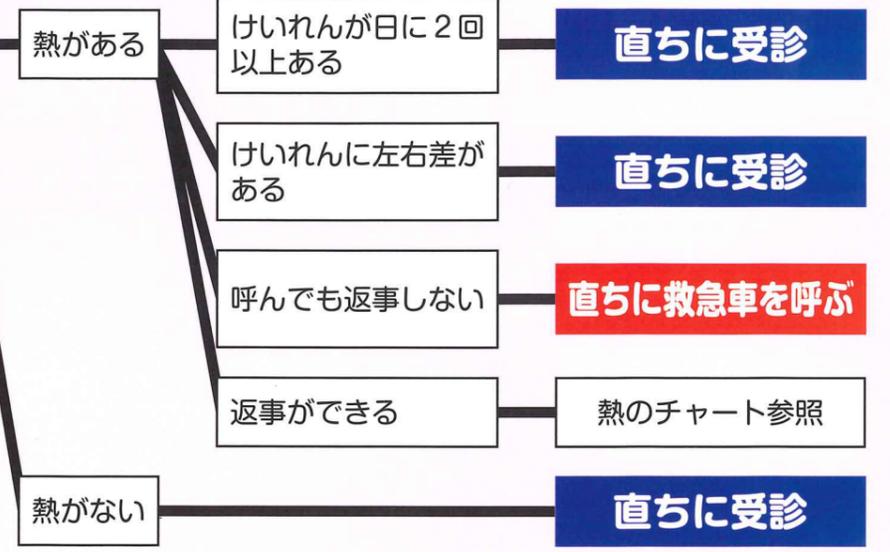
生後6ヶ月未満、またはけいれんが10分以上続いている

直ちに救急車を呼ぶ

けいれんが止まっている

けいれんが起こった時の処置

- あわてない
- 命にかかわることはありません
- 口の中に指や箸を入れないでください
- 楽な姿勢で体を横に向けて、衣服を緩めてください
- 余裕があれば動画を撮影してください



腹痛

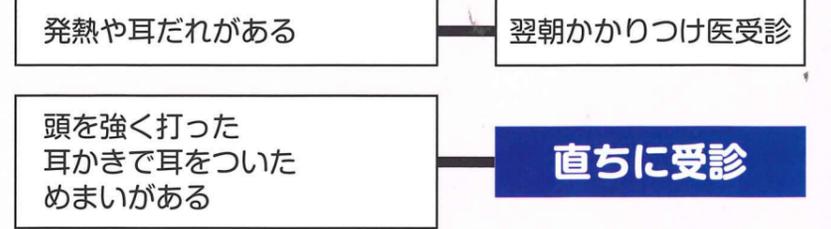
- がまんできないような痛みなら、解熱剤(鎮痛剤)を使用して1時間ほど様子をみましょう



耳痛



- がまんできないような痛みなら、解熱剤(鎮痛剤)を使用して1時間ほど様子をみましょう



家庭での注意事項

解熱剤(座薬など)は、家庭に常備しておいて下さい。急な発熱以外にも、解熱剤は鎮痛作用がありますので、腹痛、頭痛、耳痛などの時にも使用して様子を見て下さい。喘息のあるかたは、夜間発作時の対応をかかりつけ医と相談しておきましょう。